

株式会社ハイドロウィングラボ

2026年第2四半期

中国 燃料電池産業 四半期レポート

China Fuel Cell Industry Quarterly Intelligence Report

調査対象期間	2026年3月25日～2026年6月25日
対象地域	中国国内（中国企業の海外活動を含む）
対象FC種別	PEMFC / SOFC / MCFC / 商用車・乗用車・定置・低空経済 全タイプ
除外対象	水電解・水素貯蔵単体・日本・欧州・米国・その他海外発の情報
情報源	北極星氢能網・国際氢能網・各社発表 / 工信部・発改委・国家能源局・証券アナリスト報告
発行機関	株式会社ハイドロウィングラボ
作成者	シニアアナリスト
調査言語	中国語
発行日	2026年6月26日
定価	89,000円（税抜き）／97,900円（税込み）

本レポートは中国の公開情報（中国メディア・政府通知・企業発表・証券アナリスト報告等）に基づき独自に分析・編集したものです。投資・経営判断への利用は自己責任でお願いします。

目次		
1	エグゼクティブサマリー	3
1b	FC種別 技術・市場動向 早見表	5
2	市場・政策動向	5
2.1	燃料電池政策（工信部・発改委・十五五）	5
2.2	実証都市群・補助金動向	5
2.3	インフラ整備（水素ステーション）	5
3	技術動向（FC種別詳細）	6
3.1	PEMFC — 車載・定置・低空経済向け	6
3.2	SOFC — 分散型発電・熱電併給	6
3.3	FC部材 — MEA・バイポーラ板・触媒	6
4	用途別動向（詳細）	7
4.1	商用車（大型トラック・バス・物流）	7
4.2	乗用車・FCEV	7
4.3	船舶・鉄道・低空経済（ドローン）	7
4.4	定置型・フォークリフト・バックアップ電源	7
5	主要ニュース詳細（月別）	8
5.1	2026年4月	8
5.2	2026年5月	9
5.3	2026年6月	10
6	主要企業動向	11
6b	燃料電池コスト分析	12
7	技術・市場の示唆	13
7b	技術用語・略語集	16
8	参考情報・主要情報源	17
8b	アナリストのまとめ	18
9	免責事項	19

1. エグゼクティブサマリー

■ 四半期の重要トピック TOP7（中国・燃料電池）

#	トピック	重要度	分野
1	燃料電池車 実証都市群が拡大 — 新疆ハミ・山西吕梁・河南济源/濮陽・河北滄州・遼寧大連の6地域が新規加入	最重要	政策
2	「十五五」で水素を6大未来産業に位置づけ — 燃料電池の商用化加速を後押し。両会2026で成長点に	★★★★★	政策
3	水素車の高速道路通行料減免が10省市超に拡大 — 大型トラック商用化の経済性が向上	★★★★★	インフラ/政策
4	億華通(SinoHytec) 第3世代300kWエンジンM30+を量産展開 — 部品国産化率100%、累計2,100台超	★★★★★	PEMFC/商用
5	潮州三環 SOFC 300kW商用実証（深セン燃気）を起点に分散型発電・熱電併給で先行	★★★★★	SOFC
6	低空経済（ドローン）向け燃料電池が新市場に — 風冷スタックの性能・標準化が進展	★★★★★	低空経済
7	国鴻氢能・重塑能源など電堆/システム大手が大型トラック・物流で量産競争 — 装機量2026年約7,600MW予測	★★★★	企業/市場

■ 四半期の大きな流れ（3点）

①実証都市群の拡大と通行料減免で「商用車FC」の経済性が改善

本四半期は燃料電池車の実証都市群が6地域追加され、対象地域が一段と広がった。加えて10省市を超える地域が水素車の高速道路通行料減免を導入し、高速網の整備が進んだことで、大型トラック（重卡）を中心とする商用FCの総保有コスト（TCO）競争力が改善している。中国の燃料電池は乗用車ではなく、固定路線・拠点運用の商用車（トラック・バス・物流）を主戦場に据える戦略が一段と鮮明になった。

②「十五五」での未来産業位置づけが燃料電池の長期需要を支える

「十五五」計画（2026～30年）で水素エネルギーが6大未来産業に位置づけられ、両会2026では水素・グリーン燃料を新たな成長点に育てる方針が示された。これは燃料電池車・SOFC分散型発電・低空経済といった応用の長期需要を支える政策基盤となる。補助の直接給付に加え、実証都市群・通行料減免・政府調達といった需要創出策で市場を育てる中国型の進め方が続いている。

③応用の多様化 — 商用車に加えSOFC・低空経済が新たな柱に

燃料電池の主戦場は商用車だが、本四半期は分散型発電（SOFC）と低空経済（ドローン等）という新しい応用が存在感を増した。潮州三環のSOFC 300kW商用実証や、低空経済向け燃料電池の標準化進展は、車載一辺倒だった中国FC産業が定置・非道路分野へ用途を広げつつあることを示す。億華通・国鴻氢能・重塑能源などのシステム大手は、車載で量産規模を確保しつつ応用の多角化を進めている。

1b. 燃料電池種別 技術・市場動向 早見表

中国の主要な燃料電池種別・応用について、成熟度・主要プレイヤー・本四半期の動向を整理した。

種別・応用	成熟度	中国主要プレイヤー	本四半期の主要動向
PEMFC（商用車）	★★★★ 商用・量産	億華通・国鴻氢能・重塑能源 ・捷氢科技	300kW級エンジン量産。大型トラック・物流で実証都市群が牽引
PEMFC（定置・低空）	★★★ 立ち上がり	国氢科技・億華通	低空経済（ドローン）向け風冷スタックの標準化が進展
SOFC（分散発電）	★★★ 実証～初期商用	潮州三環・各社	300kW商用実証（深セン燃気）。発電効率55～65%、熱電併給で90%超
MCFC/高温型	★★ 限定	研究機関・一部企業	限定的。SOFCが定置の主流に
FC部材（MEA等）	★★★ 国産化進展	東岳・科潤・各社	膜・触媒・バイポーラ板の国産化が進み、部品国産化率が上昇
FC商用車市場	★★★★ 拡大	—	実証都市群拡大・通行料減免。2026年装機量約7,600MW予測

2. 市場・政策動向

2.1 燃料電池政策（工信部・発改委・十五五）

中国の燃料電池政策は、2025年施行の能源法（エネルギー法）が水素を法的にエネルギーと位置づけたことを前提に、工信部・発改委・国家能源局が実証都市群・政府調達・標準化で需要を主導する体制が定着している。「十五五」計画（2026～30年）で水素エネルギーが6大未来産業に位置づけられ、両会2026では水素・グリーン燃料を新たな成長点として育成する方針が示された。直接補助に加え、実証都市群への配点・通行料減免・政府調達といった需要創出策が政策の中心である。

2.2 実証都市群・補助金動向

燃料電池車の実証都市群（5大城市群を中心とする「以奨代補」方式）は本四半期に拡大し、新疆ハミ・山西呂梁・河南済源・河南濮陽・河北滄州・遼寧大連の6地域が新たに加わった。これにより対象地域が一段と広がり、各都市群が燃料電池車の導入台数・水素供給・部材国産化に応じて中央財政の奨励金を獲得する仕組みが、商用FCの普及を後押ししている。加えて10省市を超える地域が水素車の高速道路通行料減免を導入し、大型トラックの運行経済性が改善した。

政策・制度	所管	本四半期の動き
実証都市群（以奨代補）	財政部・工信部等	6地域が新規加入し対象拡大。導入台数・国産化に応じ奨励金
高速道路通行料減免	地方政府	10省市超に拡大。大型トラックのTCO競争力が改善
「十五五」未来産業	発改委	水素を6大未来産業に位置づけ。長期需要の政策基盤
能源法	全人代	2025年施行。水素を法的にエネルギーと位置づけ

2.3 インフラ整備（水素ステーション）

中国は世界最大級の水素ステーション網を有し、実証都市群を中心に整備が進む。商用車（大型トラック・バス・物流）の固定路線・拠点運用に合わせ、大流量・高稼働の「拠点（ハブ）型」ステーションが核となる。通行料減免と高速網沿いの供給拠点整備が組み合わさることで、長距離輸送での燃料電池トラックの実用性が高まっている。一方で水素価格の低減と稼働率の確保は引き続き課題である。

サンプル版はここまでです

続きは製品版でご覧いただけます。

ご購入・お問い合わせは下記よりお願いいたします。

<https://hydrowinglab.co.jp/#contact>

株式会社ハイドロウィングラボ

HydroWing Lab Co., Ltd.